

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年11月30日(2017.11.30)

【公開番号】特開2017-190351(P2017-190351A)

【公開日】平成29年10月19日(2017.10.19)

【年通号数】公開・登録公報2017-040

【出願番号】特願2017-147678(P2017-147678)

【国際特許分類】

C 07 C 7/04 (2006.01)

C 07 C 11/02 (2006.01)

C 07 C 7/10 (2006.01)

C 07 C 7/148 (2006.01)

【F I】

C 07 C 7/04

C 07 C 11/02

C 07 C 7/10

C 07 C 7/148

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月30日(2017.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

直鎖アルファオレフィン、その異性体および少なくとも1種類の有機アミンを含有する炭化水素流の精製方法であって、前記直鎖アルファオレフィン、前記異性体および前記アミンは、大気圧下で多くとも5 しか違わない沸点を有するものであり、該方法は、蒸留によって前記炭化水素流からより多い量の有機アミンを除去する工程を有してなり、該炭化水素流中の前記異性体の総量に基づいて、5%と95%の間の異性体が、前記アミンと共にアミン/異性体の豊富な留分中へと該炭化水素流から除去されるように蒸留が行われ、前記有機アミンは、n-ドデシルアミンおよび/または2-エチル-ヘキシル-アミンを含む、方法。

【請求項2】

前記直鎖アルファオレフィン、前記その異性体および前記有機アミンの大気圧下での沸点は、多くとも3 しか違わない、請求項1記載の方法。

【請求項3】

前記蒸留を大気圧下で行う、請求項1または2記載の方法。

【請求項4】

前記より多い量の有機アミンを除去するために蒸留塔が使用される、請求項1から3いずれか1項記載の方法。

【請求項5】

前記炭化水素流が、主成分として、直鎖C₁₀アルファオレフィンとその異性体および/または直鎖C₁₄アルファオレフィンとその異性体を含有する、請求項1から4いずれか1項記載の方法。

【請求項6】

前記アミン/異性体の豊富な留分が、酸で転化させ、アミン塩を形成し、形成された前

記アミン塩を水相中に抽出し、必要に応じて、前記有機アミンを単離することによって、中に含まれる前記有機アミンを除去することによってさらに分離される、請求項 1 から 5 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 7】

前記アミン / 異性体の豊富な留分のさらなる分離が、バッチ動作または連続動作である、請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】

前記アミン / 異性体の豊富な留分は、事前に分離を行うことなく、オリゴマー化プラントの反応区画で再利用される、請求項 1 から 5 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 9】

単離された前記有機アミンは、オリゴマー化プラントの反応区画で再利用される、請求項 6 または 7 記載の方法。